

薬学特論（衛生・分析・動態）

責 任 者・コーディネーター		医療薬科学講座衛生化学分野 杉山 晶規 教授	
担当講座・学科(分野)		医療薬科学講座衛生化学分野、臨床薬学講座薬物代謝動態学分野、薬科学講座分析化学分野	
対象学年	5	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	講義 20 時間 (10 コマ)
期 間	後期		
単 位 数	1 単位		

・学修方針（講義概要等）

これまでに学んだ科目のうち、幅広い知識と視野が必要とされる衛生と薬物の体内動態を知る上で必要不可欠な性状解析法や体内分布の概念や計算方法を復習して基礎力を確実にし、進歩させ、6 年生での総復習に備える。

・教育成果（アウトカム）

保健衛生、食品衛生、毒性、環境衛生に関する復習を行うことにより、衛生系科目に関する知識を整理し、理解を深めることができる。また、薬物の性状解析法や体内分布の概念を理解し、基本的な薬物の体内動態を推定できるようになることで、最終学年での総合的なまとめの学習に取り組む準備ができる。
(ディプロマ・ポリシー：2,3,4,7)

・到達目標（SBO）

1. 化学物質の性質について説明できる(166、171、176、177、179、186)。
2. 健康と環境について説明できる(511、516～518、520、521、534～537、545、547、548)。
3. 薬の体内運命について説明できる(822、839、840)。

・講義日程

(矢) 東 2-B 講義室、西 2-A 講義室

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
1/23	金	1	衛生化学分野	杉山 晶規 教授	保健統計 1. 人口統計及び傷病統計について説明できる。 【双方向授業】 【ICT (moodle)】 事前学修：教科書の該当範囲を一読し要点を確認しておくこと。 事後学修：課題に取り組み、講義内容を復習し、重要事項を定着させること。
1/23	金	2	薬物代謝動態学分野	幅野 渉 教授	薬物動態の解析(1) 1. 代表的な薬物動態パラメータの定義とそれらの関係を説明できる。 【双方向授業】 【ICT (moodle)】

					事前学修：教科書の該当範囲を一読し要点を確認しておくこと。 事後学修：課題に取り組み、講義内容を復習し、重要事項を定着させること。
1/26	月	1	衛生化学分野	杉山 晶規 教授	食中毒 1. 食中毒の発生原因と予防方法について説明できる。 【双方向授業】【ICT (moodle)】 事前学修：教科書の該当範囲を一読し要点を確認しておくこと。 事後学修：課題に取り組み、講義内容を復習し、重要事項を定着させること。
1/26	月	2	分析化学分野	藤本 康之 准教授	化学反応の反応速度 1 1. 物質の変化として、化学反応の反応速度について説明できる。 【双方向授業】【ICT (moodle)】 事前学修：教科書の該当範囲を一読し要点を確認しておくこと。 事後学修：課題に取り組み、講義内容を復習し、重要事項を定着させること。
1/28	水	1	薬物代謝動態学分野	幅野 渉 教授	薬物動態の解析(2) 1. 血中薬物濃度の時間推移と薬物動態パラメータの関係を説明できる。 【双方向授業】【ICT (moodle)】 事前学修：教科書の該当範囲を一読し要点を確認しておくこと。 事後学修：課題に取り組み、講義内容を復習し、重要事項を定着させること。
1/28	水	2	衛生化学分野	杉山 晶規 教授	毒性 1. 化学物質の安全性評価と適正使用について説明できる。 【双方向授業】【ICT (moodle)】 事前学修：教科書の該当範囲を一読し要点を確認しておくこと。 事後学修：課題に取り組み、講義内容を復習し、重要事項を定着させること。
2/4	水	1	薬物代謝動態学分野	幅野 渉 教授	薬物動態の解析(3) 1. 定常状態の血中濃度を指標とした薬物投与設計ができる。 【双方向授業】【ICT (moodle)】

					事前学修：教科書の該当範囲を一読し要点を確認しておくこと。 事後学修：課題に取り組み、講義内容を復習し、重要事項を定着させること。
2/4	水	2	分析化学分野	藤本 康之 准教授	化学反応の反応速度 2 1. 物質の変化として、化学反応の反応速度について説明できる。 【双方向授業】【ICT (moodle)】 事前学修：教科書の該当範囲を一読し要点を確認しておくこと。 事後学修：課題に取り組み、講義内容を復習し、重要事項を定着させること。
2/9	月	1	衛生化学分野	杉山 晶規 教授	環境 1. 環境汚染と地球環境の保全について説明できる。 2. 廃棄物の分類について説明できる。 【双方向授業】【ICT (moodle)】 事前学修：教科書の該当範囲を一読し要点を確認しておくこと。 事後学修：課題に取り組み、講義内容を復習し、重要事項を定着させること。
2/9	月	2	薬物代謝動態学分野	幅野 渉 教授	薬物動態の解析(4) 1. 経口投与された薬物の体内動態を、バイオアベイラビリティを用いて説明できる。 【双方向授業】【ICT (moodle)】 事前学修：教科書の該当範囲を一読し要点を確認しておくこと。 事後学修：課題に取り組み、講義内容を復習し、重要事項を定着させること。

・ 成績評価方法

定期試験 (MCQ 100%)

・ 特記事項・その他

授業に対する事前・事後学修の時間はそれぞれ予習 30 分、復習 30 分を要する。
 定期試験前には 15 時間程度の総復習の時間を確保する必要がある。
 定期試験の後は、フィードバックとして moodle に概況・解説等を掲載する。
 当該科目に関連する実務経験の有無 無

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノートパソコン	1	スライド投影のため
講義	デスクトップパソコン	1	講義資料作成
講義	iPad	1	スライド投影のため